

◎景気ウォッチャー調査[2020年11月]

2020年11月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を4.6ポイント下回る49.7となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響や、日中の気温が高く、冬物商材の需要が増加しないことで来客数が減少している。」(百貨店)、「Go To Travelキャンペーンの効果も限定的で、新型コロナウイルスの影響の方が大きく、景気はやや悪くなっている。」(旅行代理店)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を6.5ポイント下回る47.7となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少したため、前月を1.4ポイント上回る55.1となった。

雇用関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「求人数は前年比80%前後まで回復したものの、11月の新型コロナウイルスの感染拡大によって、再び減少している。」(人材派遣会社)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.0ポイント下回る52.9となった。

	11月	10月	前月差
合計	49.7	54.3	-4.6
家計動向関連	47.7	54.2	-6.5
企業動向関連	55.1	53.7	1.4
雇用関連(参考値)	52.9	55.9	-3.0

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を9.3ポイント下回る41.3となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの感染拡大局面で、外出自粛や消費マインドの低下が起きる。また、取引先の冬物の商品供給が例年に比べ少ないため、売上が減少する。」(百貨店)、「新型コロナウイルスの感染拡大により街は閑散とした雰囲気は一変してしまった。Go Toキャンペーンで増加していた客が一気に遠のいてしまったため、今後も景気は悪くなる。」(その他専門店)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を11.6ポイント下回る39.9となった。

企業動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少したため、前月を2.2ポイント下回る44.9となった。

雇用関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響で幾つかの業界で業績が急激に悪化しており、その影響が他の業界にも波及しているため、今後、全体的な求人数が更に減少する。」(学校)、「求人数は前年比80%程度で推移、登録者数は前年比60%程度まで落ち込んでいる。求人数の減少、求人の質の低下、派遣離れなど雇用環境は思わしくないことから、景気は悪くなる。」(人材派遣会社)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を7.4ポイント下回る44.1となった。

	11月	10月	前月差
合計	41.3	50.6	-9.3
家計動向関連	39.9	51.5	-11.6
企業動向関連	44.9	47.1	-2.2
雇用関連(参考値)	44.1	51.5	-7.4